



安全対策特集 “備えあれば憂いなし” ウェビナーより

『自然災害で生活はどうなる？どうする？安全に暮らす秘訣は？』

ガルフストリーム6月号でご紹介したウェビナーの報告記事第2弾は、質疑応答のコーナーです。講師のお二人に体験談を語っていただいた後、司会者の桜内企画調査委員長が参加者から寄せられた事前質問を講師に投げかけます。本稿では、講師陣が実体験に基づきご回答くださった貴重なアドバイスの一部をご紹介します。詳細は、[商工会HP](#)の「会員専用ページ」(要パスワード)に掲載された録画ビデオと資料をご覧ください。(編集部)

桜内 自然災害に関し、職場や家庭で日頃からどういふことを準備しておくか、何を決めておくことが良いかという質問が一番多かったのですが、お二人のお考えをご紹介しますか。

小川 ハリケーン襲来の際は、「避難」と「籠城」の二通りの場合に対応できるよう貴重品リストや非常食、飲料水などの事前準備しておく必要があります。非常時に家族が離れた場所にも連絡が取れるようにしておくことは大切ですし、近所の日系人コミュニティとLINEグループを作っておくと情報交換ができてとても助かります。居住物件を選ぶ際には、アパートの場合は一階を避け、一戸建ての場合は2階建ての家がお勧めです。また、当地では普段でも大雨で道が洪水になることがあるので、タイヤの1/3が水に浸かるレベルが走行限度だと知っておくこと、そして寒波の際に路面凍結が予想される場合は、絶対運転しないことです。

石井 私の方で追加でお伝えできることとしては、停電を想定して例えばソーラーで充電できる装置や現金を準備しておくことも大切だと思います。また、ガソリンタンクが半分になったら給油することを日頃から習慣付け、大切な人の連絡先は携帯電話の充電が切れてもわかるようメモにも書いておき、医療記録など重要な情報はクラウドに保存しておきましょう。貴重品のリストを記した防水の緊急避難用バッグを準備しておき、いざという時に直ぐに収集して避難できるようにしておくこともお勧めします。ペットのいる方は、チップを埋め込んでおくなど、ペット用の事前準備も忘れないようにしてください。

桜内 備えとして留意すべき点をアドバイスいただき、ありがとうございます。さて、参加者の皆さんには、当地に来られて間もない方々も多くいらっしゃると思います。当地に長年滞在されているお二人のご経験から、自然災害関連以外で、生活上、日頃から気をつけていらっしゃる点につきアドバイスいただけるでしょうか。

小川 私からは3点あります。まずは車社会のヒューストンでは、危険運転者には近寄らず対抗しない、車線変更は要注意、治安の悪そうな所には駐車しない、人目のある駐車場で貴重品をトランクに入れて車を離れない等です。また、自宅では貴重品は簡易金庫に入れ、修理業者等が家に入ってくる場合には目を離さないこと。最後に保険の専門家としての経験から申し上げますと、夫婦共々事故で亡くなることも有りうるので、財産目録を作成して配偶者以外の信用できる人に託しておくことが大切だということです。

石井 車関連のことですが、まずはドアをロックすることです。例えばガソリンスタンドで給油中に車をロックする、ドアをロックしてからカバンを助手席に置いています。また、車に乗ったら直ぐに発車する、高価な買い物したら寄り道をせずまっすぐ帰宅する、駐車する際に車の中には何も置かないなどが大切です。

ヒューストンは決して怖い街ではありません。私は27年ヒューストン住んでいて、今まで一度も大きな治安問題に巻き込まれたことはありません。このように最低限注意すべき点を頭に入れて行動していると、安全で楽しい生活を送ることができると思います。



“災害を恐れて日々の暮らしを不安で過ごしてしまうより、準備を整えておきながら、一日一日を幸せに暮らすことが大切です”

桜内 ウェビナーでは、沢山の教訓を披露頂きありがとうございました。ここからは事後インタビューになりますが、お二人が今回のウェビナー参加者に一番伝えたいことについておしえてください。

小川 三陸には「てんでんこ」という津波の教訓に基づき自分の命を守る防災標語があり、てんでんばらばらの語源と言われています。この言葉に込められた「自分の命は自分で守れ」という教えを実践し、大きな災害が起きる前から家族で話し合い、いま私たちが出来ることから始めることが肝心かと思えます。また、“天災を天罰と言われる人もいるので、日頃善行を行うことも災害防止になる”ということでしょうか。私も今回、本ウェビナーに体験談を語るボランティアとしてかかわったことで、改めて災害防止について学ぶことが多くありました。

石井 私の場合は、“命があれば、家や車やものは後からでも何でもありません”という事です。災害を恐れて日々の暮らしを不安で過ごしてしまうより、準備を整えておきながら、一日一日を幸せに暮らすことが大切ですね。先日の悲しい銃の事件(Uvaldeで起きた銃撃事件)もあり、いつ何が起るか分からない世の中にいること、周りの人や家族友人が元気である事、命がある喜びを改めて感じています。

桜内 当地で大規模な災害を体験された方々だからこそ伝えられる心に響く言葉ですね。小川さん、石井さん、ありがとうございます。

ハリケーンなどの自然災害は人間の力で食い止めることはできませんし、今後、不幸にも盗難事故や交通事故などに巻き込まれることもあるかもしれません。しかし、そのような予期せぬ災害に遭ったとしても、日頃の備えによって被害を減らすことは可能だということを今回のウェビナーを通して学びました。

皆さん、「備えあれば憂いなし」です。どうぞこの機会に、当商工会がこれまで蓄積してきたリソースをフルにご活用ください。

★[商工会HP](#)より、「[安全危機管理情報](#)」や「[ガルフストリーム](#)」、「[お助けマップ](#)」などのページをぜひご覧ください。

ウェビナー講師	小川嘉明 (正会員)	石井英理子 (準会員)
Director Global Japanese Practice/Houston, TX Baldwin Risk Partner (BRP) 米国滞在歴通算25年。企業損害保険/健康保険/人事分野で日系企業をサポート。		Broker Associate Home Experience Realty Group broker by eXP ヒューストン滞在歴27年。不動産ブローカーとして日本からの赴任者への物件紹介等をサポート。
ハリケーン・ハービー襲来時には、アパートが浸水し救助ボートで避難。一時帰国中に大寒波が襲来し、アパートの水道管破裂のため屋内浸水。留守中に入室した修理業者による二次災害(盗難事故)に遭う。		ハリケーン・ハービー襲来時には、自宅のタウンハウスが床上浸水し救助ボートで避難。自宅の修復作業が完了し、日常の生活を取り戻したのは約1年後。大寒波の際には、数日間の停電と断水を経験。